

発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
小角 道男
八尾市高美町5-7
TEL(0729)92-0119
FAX(0729)92-7722



2006 出初式



消防団の安全確保



八尾市消防団長

小角 道 男

日頃、消防団員の皆様が火災をはじめ台風、大雨等の災害から市民の安全を守るため、昼夜を分かたず献身的に活躍されていることに深く敬意を表する次第でございます。

また、消防団活動を陰で支えていただいておりますご家族の皆様には、心より厚くお礼を申し上げます。

近年の災害は、地震、台風等の自然災害のみならず大規模な事故等が相次いで発生し、数多くの消防団員が消火、警戒、救助、避難の誘導などの活動にあたっています。

このような消防団員の活動は、地域社会における緊急事態への対応活動であり、常に危険が伴い、しかもそれに立ち向かわなければならぬものであります。

複雑多様化し、また急激な変容をする災害現場における消防団活

動の安全を確保するには、幅広い教育訓練と健康で強靱な体力の維持がなされてはじめて達成できるものです。

しかしながら時間的、環境的、年齢的な制約を受ける消防団員の教育訓練及び健康管理のありかたは、効率的で質が高く、しかも地域の特性を考慮したものとする必要がありま

す。現在、本市消防団が実施しております主な安全管理対策としては、消防学校における教育訓練、消防本部との合同又分団単位での実戦訓練、健康診断のほか、防塵マスク、ケプラー手袋、ホースブリッジ、定流量計等の安全装備品の整備等であります。

今後は、災害状況の変化に機敏に対応できる知識、技能の修得を目指し、より充実した内容とするよう努力してまいります。

特に、消防団員個々の安全に対する意識改革と、過去の活動の中でうまくいかなかった事例を貴重な教訓とし、消防本部の協力を得ながら日常の教育訓練に積極的な活用を図りたいと考えております。

団員の皆様におかれましては、「消防の安全確保が市民の安全に

つながる。」

このことを常に意識しながら消防団活動に取り組んでいただきま

す。ようお願いいたします。例年になく大変厳しかったこの冬も終りを告げ、この記事が掲載される「火の見櫓」第17号が発刊される頃には、桜の便りが聞かれることと楽しみにしております。

最後になりましたが、団員ならびにご家族の皆様のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。さつといたします。

平成17年秋の叙勲

昨春秋、元八尾市消防団曙川分団結城年治さんが、瑞宝単光章を受章されました。結城さんは、昭和25年入団以来、48年の永きにわた



大阪府消防表彰式

平成18年3月19日(日)大阪府青少年会館において、平成17年度大阪府消防表彰式が行われ、本市からも消防庁長官表彰をはじめとして、多くの団員が栄えある表彰を受章されました。



消防庁長官表彰

○永年勤続功労章

団本部 副団長

稲葉 英治

大阪府知事表彰

○消防勤続功労章

高安分団 分団長

西野 仁

山本分団 副分団長

岩崎 輝昭

日本消防協会会長表彰

○精績章

団本部 副団長

向井 正雄

消防出初式

平成18年1月9日(月)午前10時、大阪府中部広域防災拠点において、消防職・団員総勢413名、車両35台が参加し、八尾市消防出初式が挙行されました。

式典は、大阪市消防局航空隊の祝賀飛行を皮切りに、消防音楽隊を先頭に消防職、団員、幼年消防クラブ員による徒歩及び自動車部隊の分列行進後、整列し、国旗掲揚、殉職者に対する黙とう、そして市長より激励の言葉の後、地域防災に貢献した団員に市長・団長表彰が授与され、消防長より決意の言葉が述べられました。最後に、消防救助隊による訓練披露があり、職員・団員・幼年消防クラブ員による一斉放水で、出初式は幕を閉じました。

今年はずと同様、大阪府中部広域防災拠点で行われ、本部席を建物側に設置することで一体感がありました。この中部広域防災拠点は航空機(ヘリコプター)を活用した物資の輸送や全国からの応援要員の受け入れ等、活動拠点として重要な役割

を果たす所であるという事が、地域住民に知って頂く良い機会であったと思います。

最後になりましたが、当日穏やかとはいえず、まだまだ寒さ厳しき中、熱心にご観覧頂きました皆様にお礼申し上げます。

また、消防職・団員の皆様ご苦勞様でした。

龍華分団 辻村



名物団員

「おめでとくフォー!」...これは去年結婚した同期団員の結婚披露宴で的一幕です。もちろん皆さんご存知の例のコースチユームを身にまとい、腰を振りまくってました。彼の名は山口泰憲、入団二年目の三十二歳、二児の父。

我が南高安分団四十五名もい

る中で、多くの個性豊かな先輩方を差し置いて真つ先に登場となりますが、異論を唱える人はいないと思います。というのも、昨年の分団旅行の宴会で、自ら率先して見事な盛り上げ役をかって出てくれたからなのです。その時の「武勇伝写真」をここでお見せできないのが残念でなりません。(広報でバラしてもごめん!)

でも、そんなお調子者の彼ですが、実は人望厚く、責任感あふれる好青年なのです。消防団員として入団と同時期に、地元の恩智青年団団長という大役をも務め上げたのですから(こうして最後に褒めたいなら青年団の時に世話した間柄やし許してくれるかな。(笑)これからも多方面にわたる活躍を期待したいと思います。またの登場を請うご期待!!

南高安分団 馬谷(英)



○勤続章

団本部 副団長 稲葉 英治
山本分団 副分団長 岩崎 輝昭

〃 〃 副分団長 梶本 成俊
〃 〃 部長 田嶋幸治郎
〃 〃 班長 山本 隆夫

大阪府消防協会会長表彰

○永年勤続章

山本分団 団員 橋本 利一

○勤続章

団本部 副団長 高橋 康夫
龍華分団 分団長 岸 孝

志紀分団 副分団長 谷 光大
〃 〃 班長 山本 悟秀

○勤功章

大正分団 分団長 阪本 俊勝
久宝寺分団 副分団長 久田 義幸

高安分団 副分団長 阪上 廣治
〃 〃 副分団長 坂井 弘明

山本分団 副分団長 兼子 弘行

○精勤章

久宝寺分団 班長 松本 圭司
西郡分団 班長 内山 正

大正分団 班長 川北 雅弘
〃 〃 班長 川本 章二

〃 〃 班長 杉本 啓一

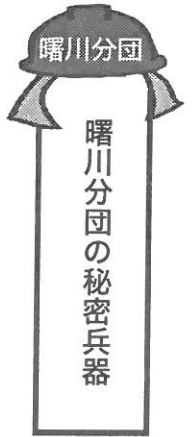
南高安分団 班長 児玉 晋一

志紀分団 班長 吉内 直之

曙川分団 団員 柏本 幸男

分 団

イフオメーション



今回は奥田分団長が試行錯誤の末、分団の為に製作してくれたホース巻き機を紹介します。

本体は回転式で中心部分に長さ15センチ程の芯棒が2本溶接されています。(写真①) その内の1本に2つ折りにしたホースを引っ掛けます。そしてそのホースの上下がずれないように本体の端に据え付けてあるガイドに通します。

(写真②) 次に巻いていく途中にホース幅が左右にずれないように当て板をかぶせます。当て板の中心部にも2本のパイプ状の芯棒があり、これを先程の本体の2つの芯棒にかぶせるのです。(写真③) あとは取っ手を持って本体を回せばホースがきれいに巻き上がります。そして最後にガイドからホースをはずし、当て板ごとホースを本体から抜き取り、ホースを押さえて当て板を抜けば完成です。(写真④)

我が分団はこの機械のお陰で消火活動や訓練後のホースの後片付けが非常に楽になり全員大喜びしています。

吉村



1月29日(日) 午前9時より、南高安分団北部分隊の消防団員と八尾市消防本部より参加された方も含め二班に別れて耐寒登山訓練を行いました。

第一班は、岩戸神社から、第二班は、原田山からそれぞれ高安山へのハイキング道を登りました。

この訓練は山林火災が起きた時の登山道を把握する目的でした。

ほかに、十五分おきに無線通信と携帯電話での連絡をし、通信状況を調査したり、野池の場所や状態を調査しながら、約

写真①



写真②



写真③



写真④



一時間半で登りました。山頂で合流後、下山し屯所でのミーティングでは、同行された消防本部の方より山林火災の活動では、単独行動の禁止と風向きに注意して消火活動を行うという説明がありました。普段での訓練では行えないことができ、貴重な体験ができました。

奥田



久宝寺分団

自主防災組織結成

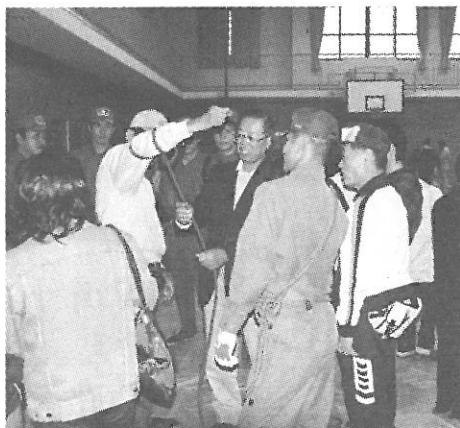
昨年11月6日、久宝寺地区の自主防災組織結成式が久宝寺小学校体育館において行われました。

久宝寺地区では、避難場所など地域の実情に合わせ、久宝寺を七つのブロックに分け、それぞれのブロックに密着した組織を結成しそれらの連合として、久宝寺小学校区単位の地区自主防災組織を結成しました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、各種団体から約200人の方々が熱心に参加され、地区連合隊長から「自分たちのまちは自分たちで守る」という、自主防災組織の必要性、組織するに至った経過説明等、参加者に対する今後の協力依頼がなされました。

式典終了後、参加者全員が四つのグループに分かれ、「炊き出し訓練」「ロープ結索体験」「119番通報体験」「救急心肺蘇生訓練」を順番に体験しましたが、皆さんとても真剣で、特にロープ結索体験は、出来るまで何度も繰り返し取り組んでおられました。今後、我々消防団も、地域の一

員として、先駆けて活動されている他の分団の活動を参考にしながら、地区自主防災組織との連携について考えて行きたいと思えます。



岡井

八尾分団

萱振地区消防防災訓練

11月6日(日)、萱振地区集会場にて行われた萱振地区消防防災訓練に八尾分団が参加しました。

訓練は地域住民約50名に八尾分団11名全員が加わり、最初に集会場からの出火との想定で、通報、初期消火、八尾分団消防車の出動及び放水訓練をしました。これについては、分団の日

頃の訓練が遺憾なく発揮することが出来ました。

次に参加者による消火器の取り扱い訓練をしました。参加された方々は消火器を取り扱ったことがなく、粉末消火器を上に向けてしまう方が多く集会場周辺が真っ白になり、てんやわんやでした。



最後に災害発生時における災害救助用の水、アルファ米(ドライかやくご飯)、カンパンを試食しました。アルファ米はお湯さえあれば、50人分のかやくご飯を簡単に作る事ができ、味も非常に満足のいくものでした。カンパンに関しては戦後に一回っていたものとは全く違い、昔のイメージを払拭するものであると年配の方々から聞かされました。

川崎・岩崎

山本分団

年の差を越えた親睦旅行

山本分団東山本分隊では、2月11日に新入団員も含め、上は50代から下は20代の計12名で若狭方面に親睦旅行に出かけました。

年の差関係なく楽しく会話が出来るかと考え、敢えて交通手段をバスにすることにしました。その甲斐あつて新団員も含め各団員からも今後の活動についての意気込み等を話す事が出来ました。

夜の宴会では、梶本副分団長及び山本班長より労いの言葉も頂き各団員の意識も一つになる事が出来ました。

今回の旅行では、各団員にとつて有意義な時間を過ごせたと思えます。



川上

八尾市防災訓練

平成18年1月22日(日)、高安中学校にて、八尾市主催による住民参加の体験型の防災訓練が実施されました。この訓練は、最初に災害発生時での避難誘導訓練を、高安中学校まで行い、又高安中学校では、防災各関係機関による展示ブースや体験コーナーが行われ総勢約1700名が参加しました。



内容は、体育館では、心肺蘇生法(AED)、応急手当、119番通報の実技体験が、又グラウンドでは、防災機関の展示コーナー、

非常食の試食試飲、煙体験、起震車による地震体験、初期消火、ロープ渡り、災害伝言ダイヤル、高所体験などが実施されて、最後に防災機関による、大規模地震発生による訓練があり、車に閉じ込められた人や建物に取り残された人を救助した後に消防署と消防団による一斉放水をして訓練は無事に終わりました。このような規模の大きい訓練に参加し、災害が起らないことを祈るとともに起こった時は、各地域機関と連携を保ち的確に対処できるように、防災に対して意識を高める訓練となりました。

高安分団 酒井・山村



あなたは大丈夫?

平成17年11月12日(土)、消防本部において健康診断が行われ、団員252人中130人が受診されました。

多くの方が開始早々より検診を受けておられ、健康に対する関心の深さが感じられました。診断の結果、66.9%の方が何らかの異常がみられており、その多くが生活習慣病及びその予備軍だと思われます。病気は予防及び早期治療が大切です。この健康診断結果を参考にし、日頃の生活態度を見直してみたいかがでしようか?

八尾分団 岩崎

○ 受診者 130名 (51.6%)

○ 受診者の内訳

- A - 15名 正常
- B - 28名 ほぼ正常
- C - 26名 要経過観察
- D - 27名 要再検査
- E - 19名 要精密検査
- G1 - 12名 治療中
- G2 - 3名 経過観察中

○ 所見別

- 1 血中脂質 87名
- 2 肝機能 80名
- 3 血圧 28名
- 4 血糖 22名



歳末特別警戒

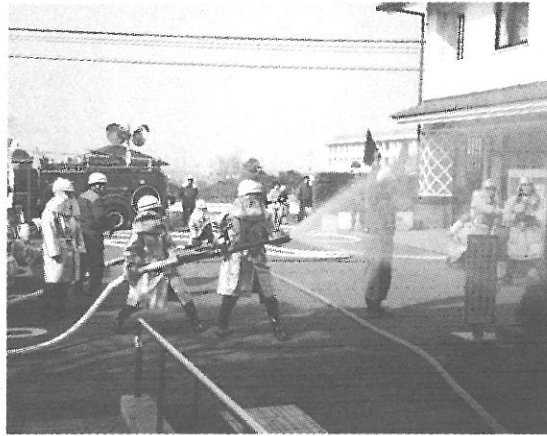
平成17年12月29日、30日の両日八尾市全域で歳末特別警戒が実施されました。29日に小角団長以下団本部の激励を受け、各分団は管轄区域内をポンプ積載車で防火広報をしながら夜遅くまで巡回パトロールを行いました。又、今年は地域で自主的に夜警をしている所が例年以上に多く、心強く思ったと共に、地域住民の防災意識の高揚を感じることができました。

曙川分団 吉村



文化財訓練

平成18年1月27日(金)、八尾市千塚の歴史民俗資料館において、消防署・消防団、資料館関係者による合同の文化財消防訓練が実施されました。



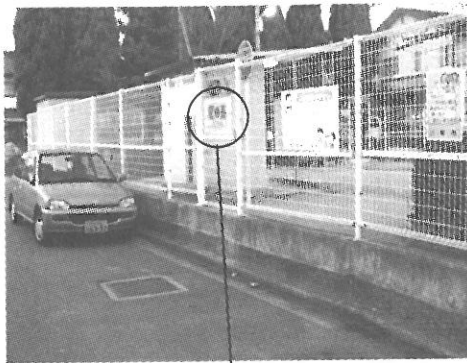
訓練は関係者による通報訓練から始まり、避難誘導・負傷者の救出、文化財の搬出訓練・放水訓練を消防署・消防団、そして関係者によって実施されました。

貴重な文化財を残していく為に、このような訓練が必要だと感じました。

高安分団 酒井・山村

アイデアを行動で

大正地区木の本一丁目にある、木の本公園に平成17年3月に立派な「防火水槽」が出来たのですが困ったことにこの公園前は非常に路上駐車が多く、常に吸水口前の扉の所がふさがっている状態でした。このままでは実際の火災時に消防車が吸水管を繋げないのではとと言う不安がありました。ところがこのような看板を設置した所、ご覧のように扉の前を空けて駐車するようになりました。この看板(消防本部と八尾警察は了承済)を設置したのが木の本分団の南野団員です。彼は、見た目十年選手ですが、新入団員です。彼の色いなるアイデアを紹介す



ると、我々消防団員は火災現場へ消防車で向かうのですが、乗車出来なかった者はそれぞれ自家用車・バイク・自転車などで現場に向かいます。現場周辺に駐車・駐輪する際付ける「消火活動中につき迷惑おかけしてまいります」というプレートを作成し、他に消火作業時防火服・現場外套を着用するのですが各々の外套をいち早く取り出せるように、ネームプレートを引くと自分の外套がでてくるといったものを作りました。これらは災害時迅速に行動出来るよう考えたものです。他にもありますが、またの機会に紹介させていただきます。大正分団ではこの4月より南野団員を中心にホームページを開設しました。機会がありましたら、ぜひご訪問ください。

大正分団 内山・松本

消火吸水口につき
駐車遠慮ください

八尾市消防団大正分団
八尾市消防本部
大阪府八尾警察署

ホームページアドレス
http://www.osaka.zaq.jp/yaofvc_taisho/

ボウリング大会

平成17年10月22日(土)に、消防団厚生事業の一環として、恒例のボウリング大会が、八尾ボウルアローにて小角団長以下166名の参加で盛大に行われました。当日は、上位入賞をめざしスコアメイクする者、ストレス解消をボールにぶつける者、そして明日の筋肉痛が怖くて力を入れない者など、各自楽しいひと時を過ごしました。上位入賞者された方々はつぎのとおりです。

おめでとうございました。



喜びの山科氏

- 優勝 山科輝明 361点 志紀
- 準優勝 濱口好之 355点 曙川
- 3位 福田正三 355点 久宝寺
- ハイゲーム賞

山科輝明 246点 志紀

尚、優勝とハイゲーム賞の山科氏は2年連続です。どこまで記録が伸びるか楽しみです。

大正分団 松本

消防総合訓練

平成18年3月9日(木)都塚の社会福祉法人ケアハウスやまなみにおいて消防署、消防団合同の消防総合訓練が実施されました。

参加人員は消防署47名、消防団5名、やまなみ関係者5名の計57名で参加車両は計6台。

火災は鉄筋コンクリート造5階建の3階洗濯室付近から出火し上階へ延焼中、建物内には濃煙が充満し避難困難な状況で多数の要救助者がいるとの想定で行われました。



訓練はやまなみ関係者による通報、初期消火訓練に始まり、消防署、消防団による2階、3階、4階からそれぞれ三連はしこ、誘導ロープ、梯子車を使つての救出訓練や避難誘導、担架での搬送及び応急処置訓練が行われ、最後に一斉放水訓練が実施されました。

時代のニーズにより今後も、高層化した社会福祉施設の増加が予想されます。そのため消火や救出活動も困難を極めると思われますが、火災発生時には一緒になつて活動していたためにもこのような訓練は非常に大切なものだと感じました。

曙川分団 吉村



八尾市消防団年間行事予定

- 4月 消防団員任命式
恩智川水防訓練
- 5月 初任科・幹部科研修
大阪府地域防災総合演習
- 6月 消防団厚生事業
幹部視察研修
- 7月 大阪の消防大賞
- 8月 中河内地区支部総合訓練
八尾河内音頭まつり特別警戒
- 9月 大阪府消防大会
- 10月 広報誌発刊
- 11月 秋季火災予防運動
消防総合訓練
- 消防団健康診断
防火フェスティバル
- 消防団ポンプ操法訓練
消防団厚生事業
- 12月 歳末特別警戒
- 1月 消防出初式
防災とボランティア訓練
文化財訓練
- 3月 春季火災予防運動
消防総合訓練
消防記念日式典
大阪府消防表彰式

広報部会名簿

委員長	久宝寺分団	志村 武
副委員長	曙川分団	吉村 孝司
	山本分団	川上 剛弘
委員	久宝寺分団	岡井 淳治
	西郡分団	嶋林 正雄
	八尾分団	小笠原 志一
	龍華分団	川崎 弘純
	大正分団	辻村 孝司
	曙川分団	松本 大良
	南高安分団	内山 芳彦
	高安分団	小瀬 有明
	山本分団	馬谷 幸洋
	志紀分団	畑中 喜学
	山本分団	奥田 文雄
	山本分団	山井 義久
	山本分団	酒井 友忠
	山本分団	山科 雅一
	山本分団	阪本 健一

編集後記

皆様のご尽力をもちまして「火の見櫓」第17号も無事発刊する事ができました。また次号に向け各分団の活動など新鮮な記事をお願いします。ありがとうございました。

吉村